
資 料

がんの診断を受けた人々の社会的ネットワークにおける他者との関係性に関する統合的文献レビュー

Integrative Literature Review on the Relationships with Others of the Social Networks of People Diagnosed with Cancer

竹下裕子¹⁾²⁾, 山内栄子³⁾

Hiroko Takeshita, Eiko Yamauchi

キーワード：がん患者，社会的ネットワーク，文献レビュー

Keyword：Cancer Patients, Social Network, Literature Review

抄 録

がんの診断を受けた人々が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性について、これまでの研究知見の統合を通じて明らかにすることを目的に、Cooper(2017)のresearch synthesisの手順を参考に統合的文献レビューを実施した。「腫瘍」「がんサバイバー」「社会的ネットワーク形成」「社会的支援」「つながり」「人間関係」「cancer patients」「cancer survivors」「social network」「social networking」「social support」等を掛け合わせて検索し、選定基準を満たした73件を分析対象とした。その結果、がんの診断を受けた人々は、がん診断・治療に伴うニーズを満たすために他者を必要とし、がん診断前とは異なるさまざまな形態の支援を受け取っていることが明らかになった。一方、支援を受け取ることには負担が生じ、他者との衝突、関係維持の阻害等も生じていることが明らかになった。また、社会的ネットワーク内の調和を脅かさないようにする等の行動をとっていることも明らかになった。がんの診断を受けた人々が、社会的ネットワークから必要な支援やエネルギーを得ながら、サバイバーシップを達成していくための支援の在り方について検討が必要である。

受付日：2024年10月31日 受理日：2025年2月13日

1) 愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程

2) 摂南大学看護学部

3) 愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻

I. はじめに

日本における2019年のがん罹患数は約99万人で、1985年以降、増加を続けている（国立がん研究センター, 2024）。地域包括ケアシステムの構築が2025年を目途に推進されている（地域包括ケア研究会, 2017）が、その後も団塊の世代が75歳から85歳以上に移行する2025年から2039年にかけて、平均がん罹患数は増加を続けると予測されている（国立がん研究センター, 2017）。がん罹患後も、住み慣れた地域で他者とのつながりを維持し、自分らしい暮らしを続けられる（地域包括ケア研究会, 2017）ための支援が重要となる。

がんの診断を受けた人は、がんサバイバーシップ、即ち、がん診断時からの全ての期間を、がんと共に、がんを乗り越え生き抜く（National Coalition for Cancer Survivorship, 2014）なかで、医療提供者、家族、友人、コミュニティを含む他者との関係性に重大な変化や混乱を経験し、生活の多領域に影響が及んでいる（Wood, 2018）ことが明らかにされている。

人間関係や社会との関係を表す概念に、社会的ネットワークがある。Mitchell（1969）は、個人の社会的行動を理解するために、複数の個人間の連結の特質を全体的に把握したうえで、社会的ネットワークを特定個人間の特定の連結を想定する概念とし、ネットワーク連鎖の最も重要な相互作用の側面は、ネットワークを構成する人間が自らの関係性の意味にかかわっていることであると説明している。Kadushin（2012）は、ネットワークとは関係性の集合のことであると説明している。乳がん診断後のsocial tiesと生存性を前向きに調査した結果では、社会的につながりを維持していた女性と比較して、社会的に孤立していた女性は、死亡率のリスクが66%増加すること（Kroenke, Kubzansky, et al., 2006）、肺がん患者が社会的ネットワークを持つことの意味を調査した結果では、良好な関係は支援となり、孤独や見捨てられる感覚を感じずに穏やかで自信を得ることを可能にすること、ネットワークから支援を得ることで自ら日常生活上の困難に対処し、マネジメ

ントを実行できること（Sjölander, Berterö, 2008）が報告されている。日本のがん患者を対象に実施された先行研究では、他者とのつながりを通して、自分の存在価値を確かめる（川村, 2005）、自分らしく生きていく（矢ヶ崎, 小松, 2007）、希望を見いだす（角田, 望月ら, 2016）等が報告されており、がんの診断を受けた人の社会的ネットワークの充足は、がんサバイバーシップに重要な機能を果たすといえる。

一方、がんの診断を受けた人は、周囲からの過剰な気遣いやサポートによる負担が生じる（広瀬, 佐藤ら, 2011; 向井, 大石ら, 2012）、ネットワークを活用する一方でネガティブサポートが存在する（佐々木, 佐藤ら, 2016）、周囲との隔たりに直面する（天野ら, 2017）、社会的ネットワーク全体における高レベルなスティグマと心理的苦痛が生じる（Occhipinti, Dunn, et al., 2018）等、社会的ネットワーク内に生まれる負担や苦痛の報告もある。Cohen（2004）は、社会的ネットワークは支援の機会を生み、個人のストレス対処能力を高める一方、否定的感覚を生む機会にもなり、ストレス源としての関係性を含むことを指摘している。社会的ネットワークのなかに存在する他者との関係性が、苦痛の原因として継続しないよう、方策が必要である。

先行研究では、社会的ネットワークと社会的相互作用の概念を採用したがん患者に関する文献レビュー（Jones, Storksdieck, 2019）の結果が報告されているが、直近1年間に発行された文献のみを対象に、特に社会的ネットワーク解析を用いた研究に注目して分析されている。このため、がんの診断を受けた人が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性に関して、全体の姿を理解するには十分でない。

そこで本研究は、がんの診断を受けた人々が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性について、これまでの研究知見の統合を通じて明らかにすることを目的とする。

Ⅱ. 研究方法

Cooper (2017) の統合レビュー (Research Synthesis) の手順を参考に実施した。Research Synthesis は、文献レビューに包含され、同一または関連する仮説を伝える多くの個別の調査から、包括的な結論を引き出すことによって、過去の研究を統合する目的をもつ (Cooper, 2017) ことから、本研究目的に適合すると考え採用した。

1. 文献検索方法

書誌データベースは、医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5)、PubMed、CINAHL を用いた。医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) では、キーワードを「腫瘍」「がんサバイバー」「社会的ネットワーク形成」「社会的支援」「オンライン社会的ネットワーク形成」「つながり」「人間関係」で掛け合わせて論文種類を原著論文、分類を看護、19歳以上を対象とした文献で絞り込み、会議録を除いた。PubMed、CINAHL では、キーワードを「cancer patients」「cancer survivors」「social network」「social networking」「social support」「nursing」で掛け合わせて19歳以上を対象とした文献で絞り込んだ。文献検索の結果、医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) 316件、PubMedは100件、CINAHLは118件の合計534件が抽出され、この時点で書誌データベースごとにNo.1から文献番号を付した。いずれも検索対象年は指定せずに実施した。文献検索は2021年5月に実施した。

文献の選定基準は、がんの診断を受けた人の社会的ネットワークについて、結果のなかに記述されている一次資料の論文とした。検索された文献534件から重複論文12件を除いた522件のタイトル、抄録、本文の確認が必要な場合は本文全体を精読し、がんの診断を受けた人々の社会的ネットワークを中心的に扱う一次資料でない論文292件、研究対象者が患者本人でない論文122件、対象者に特定の介入を加えた論文31件、入手不可能である論文3件、日本語・英語以外の論文1件を除外し、最終的に選定基準を満たす73件（和文30件、英文43件）を分析対象とした。なお、文中の[]

内は、文献番号を示す。

2. 分析方法

選定した73件の文献について、発行年、研究デザイン、研究目的、研究対象（がんの診断と病期分類、治療内容）、研究調査国、研究方法、社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性に関する研究成果、社会的ネットワークに関連して用いられている用語等の項目を抽出するコーディングシートを作成した。関係性に関して抽出した研究成果は、意味の読みとれる単文あるいは文脈を記録単位として抽出し、その意味内容を類似性、相違性の観点から検討し、類似するものをグループにまとめて要約を行った。

Ⅲ. 結果

1. 分析対象文献の概要 (表1)

分析対象文献のうち、最初の発行年は、英文では1990年、和文では2002年であった。年次別の発行件数は、1990年～2000年6件（8.2%）、2001年～2010年23件（31.5%）、2011年～2020年44件（60.3%）であり、このうち2019年10件（13.7%）が最多であった。研究デザインは、質的研究37件（50.7%）、量的研究34件（46.6%）、その他2件（2.7%）であった。研究対象者の診断は、乳癌が23件（31.5%）で最多、次いで肺癌6件（8.2%）、婦人科癌6件（8.2%）であった。対象者の病期を特定していないものは半数以上を占めていた。研究対象者の治療条件を1つに特定しているもののうち、手術療法が16件（21.9%）で最多、次いで化学療法14件（19.2%）、放射線治療3件（4.1%）であった。調査国は、日本が32件（42.8%）で最多、次いで米国12件（16.4%）、中国6件（8.2%）であった。分析対象73論文のうち、タイトルに「social network / 社会的ネットワーク」を含む論文は2件（2.7%）で、「social support / support / ソーシャルサポート / サポート」を含む論文が40件（54.8%）であった。また、社会的ネットワーク、ソーシャルサポート以外の用語をタイトルに採用している研究が31件（42.5%）あった。

表 1. 分析対象文献一覧 (73件)

著者	タイトル, 掲載誌 (研究デザイン)	発行年	診断名 (がん種)	文献番号
Marten, et al.	The work of patients and spouses in managing advanced cancer at home. Hospice Journal, 6(2), 55-73. (質的研究)	1990	進行癌	C88
Perry	Loneliness and coping among tertiary-level adult cancer patients in the home. Cancer Nursing, 13(5), 293-302. (量的研究)	1990	限定なし	C101
Suominen, et al.	Who provides support and how? Breast cancer patients and nurses evaluate patient support. Cancer Nurs, 18(4), 278-285. (量的研究)	1995	乳癌	P83
Douglass	Reciprocal support in the context of cancer: perspectives of the patient and spouse. Oncology Nursing Forum, 24(9), 1529-1536. (量的研究)	1997	限定なし	C109
Hinds, et al.	Support as experienced by patients with cancer during radiotherapy treatments. Journal of Advanced Nursing, 26(2), 371-379. (質的研究)	1997	限定なし	C110
Makabe, et al.	Components of social support among Japanese women with breast cancer. Oncology Nursing Forum, 27(9), 1381-1390. (質的研究)	2000	乳癌	C68
Lee, et al.	Factors related to quality of life in breast cancer patients receiving chemotherapy. J Nurs Res, 9(3), 57-68. (量的研究)	2001	乳癌	P92
真壁	日本人乳がん体験者のソーシャル・サポートと精神的・身体的状況に関する縦断的研究. 日本がん看護学会誌, 16(2), 35-45. (量的研究)	2002	乳癌	医314
Hamilton, et al.	Types of social support in African Americans with cancer. Oncology Nursing Forum, 31(4), 792-800. (質的研究)	2004	前立腺癌・乳癌	C75
高橋, ら	がん体験者のQOLに対する自助グループの情緒的サポート効果. 日本がん看護学会誌, 18(1), 14-24. (量的研究)	2004	限定なし	医303
Liu, et al.	Perceptions of Chinese cancer patients of the favorable and unfavorable words conveyed by their social support providers. Cancer Nurs, 28(5), 348-54. (質的研究)	2005	限定なし	P57
吉田, ら	外来通院をしている血液腫瘍患者の自己効力感とその影響要因. The Journal of Nursing Investigation, 4(1), 6-14. (量的研究)	2005	血液腫瘍	医208
Liu, et al.	Caring in nursing: investigating the meaning of caring from the perspective of cancer patients in Beijing, China. Journal of Clinical Nursing, 15(2), 188-196. (質的研究)	2006	限定なし	C62
Tan	Social support and coping in Turkish patients with cancer. Cancer Nursing, 30(6), 498-504. (量的研究)	2007	限定なし	C108
矢ヶ崎, ら	外来で治療を続ける再発乳がん患者が安定した自分へ統合していく体験. 日本がん看護学会誌, 21(1), 57-65. (質的研究)	2007	乳癌	医271
瀬山, ら	化学療法を継続する進行消化器がん患者の治療に対する意思決定要因の検討 化学療法を継続しながらも転移や増悪をきたした患者. 群馬保健学紀要, 27, 43-53. (質的研究)	2007	消化器癌	医274
吉田, ら	終末期がん患者と周囲の人々とのつながりに関する研究. 香川大学看護学雑誌, 11(1), 9-16. (質的研究)	2007	全肺肺癌	医277
Sammarco, et al.	Quality of life, social support, and uncertainty among Latina breast cancer survivors. Oncology Nursing Forum, 35(5), 844-849. (量的研究)	2008	乳癌	C69
Ding, et al.	Social Support of Chinese patients with ovarian malignancies during chemotherapy: A cohort questionnaire survey. International Journal of Nursing Studies 45, 1205-1213. (量的研究)	2008	卵巣癌	C107
Sjölander, et al.	The significance of social support and social networks among newly diagnosed lung cancer patients in Sweden. Nurs Health Sci, 10(3), 182-187. (質的研究)	2008	肺癌	P53
岡本, ら	胃がん術後患者の職場復帰における主体的取り組み. 千葉看護学会誌, 14(2), 28-36. (質的研究)	2008	胃癌	医231
新山, ら	喉頭摘出者の思い. 看護・保健科学研究誌, 8(1), 257-268. (質的研究)	2008	喉頭癌・咽頭癌	医255
佐藤, ら	顔貌の変化をきたした口腔がん術後患者における退院後の生活実態. The Kitakanto Medical Journal, 58(1), 17-26. (質的研究)	2008	口腔癌	医259
光井, ら	外来化学療法を受けている患者のQOLに影響を及ぼす要因. 日本がん看護学会誌, 23(2), 13-22. (量的研究)	2009	限定なし	医215
長瀬, ら	喉頭摘出者のコミュニケーション手段の再獲得過程における問題と支援. 日本看護研究学会雑誌, 32(4), 17-28. (質的研究)	2009	喉頭癌・咽頭癌	医217
妹尾	中期乳がん患者の乳がん罹患後の人生の希望と不安 家族や同病者, 重要他者からのサポートとの関連について. 母性衛生, 50(2), 334-342. (質的研究)	2009	乳癌	医218
Kristiansen, et al.	The benefit of meeting a stranger: experiences with emotional support provided by nurses among Danish-born and migrant cancer patients. Eur J Oncol Nurs, 14(3), 244-52. (質的研究)	2010	限定なし	P67
佐藤, ら	外来化学療法を受ける患者の精神的問題とその関連要因の検討. 日本がん看護学会誌, 24(1), 52-60. (量的研究)	2010	限定なし	医194
国府	初期治療選択を行う乳がん患者が受けるサポート. 日本がん看護学会誌, 24(2), 24-31. (質的研究)	2010	乳癌	医183
Heiney, et al.	Antecedents and Mediators of Community Connection in African American Women With Breast Cancer. (量的研究)	2011	浸潤性乳管癌	C59
広瀬, ら	若年女性生殖器がん術後患者の他者との関係における体験. 千葉看護学会誌, 17(1), 43-50. (質的研究)	2011	子宮癌・卵巣癌	医161
川崎, ら	外来化学療法を受けているがん患者の潜在的ニーズ. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要, 18, 35-47. (質的研究)	2011	限定なし	医174
井上, ら	回復期にある婦人科がん術後患者のQOLの実態と関連要因. 日本がん看護学会誌, 26(3), 14-22. (量的研究)	2012	婦人科癌	医127
楠葉, ら	外来化学療法を受けているがん患者の気がかりとそのサポート. 保健学研究, 24(1), 19-25. (量的研究)	2012	限定なし	医134
山手	乳がん患者が捉えた治療を継続していく力につながる家族のサポート. 死の臨床, 35(1), 113-117. (質的研究)	2012	乳癌	医137
向井, ら	外来通院中の進行肺がん患者のストレスコーピングとソーシャル・サポートの検討. 三重看護学誌, 14(1), 29-39. (質的研究)	2012	肺癌	医151

Yli, et al.	Motives of cancer patients for using the Internet to seek social support. Eur J Cancer Care, 22(2), 261-71. (質的研究)	2013	限定なし	P42
Dawe, et al.	Emotional and informational needs of women experiencing outpatient surgery for breast cancer. Canadian Oncology Nursing Journal, 24(1), 20-24. (質的研究)	2014	乳癌	C30
Sanoff, et al.	Lack of Support and Information Regarding Long-Term Negative Effects in Survivors of Rectal Cancer. Clinical Journal of Oncology Nursing, 19(4), 444-448. (質的・量的研究)	2015	直腸癌	C26
Yilmaz, et al.	Ways of coping with stress and perceived social support in gynecologic cancer patients. Cancer Nurs, 38(2), E57-62. (量的研究)	2015	婦人科癌	P41
Ochayon, et al.	Symptoms of hormonal therapy and social support: Is there a connection? Comparison of symptom severity, symptom interference and social support among breast cancer patients receiving and not receiving adjuvant hormonal treatment. Eur J Oncol Nurs, 19(3), 260-267. (量的研究)	2015	乳癌	P62
Tang, et al.	Threatened with death but growing: changes in and determinants of posttraumatic growth over the dying process for Taiwanese terminally ill cancer patients. Psychooncology, 24(2), 147-54. (量的研究)	2015	限定なし	P75
川中, ら	女性生殖器がん患者の術後補助療法中のソーシャルサポートに関する検討. 神戸大学大学院保健学研究科紀要, 30, 1-19. (質的研究)	2015	女性生殖器癌	医96
神谷	化学療法を受けている再発がん患者の希望の維持に影響するソーシャル・サポート. 日本赤十字看護学会誌, 15(1), 11-19. (質的研究)	2015	限定なし	医98
Song, et al.	Experience of nursing support from the perspective of patients with cancer in mainland China. Nursing & Health Sciences, 18(4), 510-518. (質的研究)	2016	限定なし	C32
谷野, ら	成人前期の術後乳がん患者のQOLの実態とそれに関連する要因. 日本衛生活雑誌, 71(2), 163-172. (量的研究)	2016	乳癌	医73
佐々木, ら	初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連. 日本がん看護学会誌, 30(2), 99-106. (量的研究)	2016	初発乳癌	医75
仙波, ら	前立腺全摘除術後がん患者の尿失禁と生活の質の関係. 日本がん看護学会誌, 30(1), 34-44. (量的研究)	2016	前立腺癌	医79
Matthews, et al.	Dropped from the system': the experiences and challenges of long-term breast cancer survivors. Journal of Advanced Nursing, 73(6), 1355-1365. (質的研究)	2017	乳癌	C33
Dong, et al.	The mediating role of resilience in the relationship between social support and posttraumatic growth among colorectal cancer survivors with permanent intestinal ostomies: A structural equation model analysis. Eur J Oncol Nurs, 29, 47-52. (量的研究)	2017	大腸癌	P49
萩原	2次治療以降の化学療法を継続している進行肺がん患者の療養生活における主体的取り組み. 日本がん看護学会誌, 31, 31-37. (質的研究)	2017	肺癌	医55
Peeters, et al.	Support Needs of People With Head and Neck Cancer Regarding the Disease and Its Treatment. Oncology Nursing Forum, 45(5), 587-596. (質的研究)	2018	頭頸部癌	C16
Hatano, et al.	Japanese Cancer Survivors' Awareness of and Participation in Support Groups. J Cancer Educ, 33(1), 208-213. (量的研究)	2018	限定なし	P6
Viitala, et al.	The Coping and Support Needs of Incurable Cancer Patients. (質的研究)	2018	難治性癌	P10
Lee, et al.	Symptom Distress and Coping in Young Korean Breast Cancer Survivors: The Mediating Effects of Social Support and Resilience. J Korean Acad Nurs, 48(2), 241-253. (量的研究)	2018	初発乳癌	P32
Henshall, et al.	Typologies for Restructuring Relationships in Cancer Survivorship. Cancer Nursing, 41(6), E32-E40. (質的研究)	2018	限定なし	P37
Green, et al.	Perceptions of Support Groups Among Older Breast Cancer Survivors: "I've Heard of Them, but I've Never Felt the Need to Go". Cancer Nurs, 41(6), E1-E10. (質的研究)	2018	乳癌	P45
Bando, ら	日本における術後肺癌患者の治療関連症状とコーピング 希望に影響する因子モデルの開発. Japan Journal of Nursing Science, 15(3), 237-248. (量的研究)	2018	肺癌	医33
日下田, ら	がん化学療法による慢性末梢神経障害を抱える患者のQOLに及ぼす要因の分析. 日本がん看護学会誌, 32, 88-97. (量的研究)	2018	限定なし	医40
井関, ら	術後放射線治療を受ける初発乳がん患者のセルフケア行動. 調査研究ジャーナル, 7(2), 111-120. (質的研究)	2018	初発乳癌	医43
Johnson, et al.	Stigma and Quality of Life in Patients With Advanced Lung Cancer. Oncology Nursing Forum, 46(3), 318-328. (量的研究)	2019	肺癌	C10
Van, et al.	Open Wounds and Healed Scars: A Qualitative Study of Elderly Women's Experiences With Breast Cancer. Cancer Nursing, 42(3), 190-197. (質的研究)	2019	乳癌	C12
Uslu, et al.	Hopelessness, Death Anxiety, and Social Support of Hospitalized Patients With Gynecologic Cancer and Their Caregivers. Cancer Nursing, 42(5), 373-380. (量的研究)	2019	婦人科癌	C21
Ozbayir, et al.	Influence of demographic factors on perceived social support among adult cancer patients in Turkey. Niger J Clin Pract., 22(8), 1147-1156. (量的研究)	2019	限定なし	P9
Paladino, et al.	A qualitative exploration of race-based differences in social support needs of diverse women with breast cancer on adjuvant therapy. Psychooncology, 28(3), 570-576. (質的研究)	2019	乳癌	P13
Park, et al.	Could Peer Support Programs Be a Good Resource for Managing the Unmet Needs of Cancer Patients? Cancer Educ, 34(5), 950-957. (量的研究)	2019	限定なし	P23
Fletcher, et al.	Understanding Functional Communication in Head and Neck Cancer Survivors Using a Mixed Methods Design. Cancer Nurs, 42(2), 119-128. (混合研究法)	2019	頭頸部癌	P24
Felder, et al.	Expectations and reality: perceptions of support among African American breast cancer survivors. Ethn Health, 24(7), 737-753. (質的研究)	2019	乳癌	P29
Ji, et al.	The detrimental effects of ambivalence over emotional expression on well-being among Mainland Chinese breast cancer patients: Mediating role of perceived social support. Psychooncology, 28(5), 1142-1148. (量的研究)	2019	乳癌	P39
高野, ら	食道切除再建術後がん患者が受けた退院後の食の再獲得を支える他者からの援助. 日本がん看護学会誌, 33, 1-10. (質的研究)	2019	食道癌	医35
Sørensen, et al.	Social support in early-stage breast cancer patients with fatigue. BMC Womens Health, 20(1). (量的研究)	2020	乳癌	P3
Kroemeke, et al.	Daily received support and relational functioning in HCT survivors and their caregivers. Psychooncology, 29(8), 1329-1337. (量的研究)	2020	造血幹細胞移植後患者	P12
Carnahan, et al.	Comparing the roles of social context, networks, and perceived social functioning with health-related quality of life among self-reported rural female cancer survivors. Support Care Cancer, 29(1), 331-340. (量的研究)	2020	限定なし	P36

P: PubMed C: CINAHL 医: 医学中央雑誌

2. がんの診断を受けた人が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性

分析対象73論文から抽出した、がんの診断を受けた人々が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性に関する記述内容は、類似するものをまとめた結果、9つに分類された。以下に要約を記述する。なお、[] 内の文献番号に付した「医」は医学中央雑誌、「P」はPubMed、「C」はCINAHLの書誌データベースからの抽出であることを示す。

1) がん診断・治療に伴うニーズを満たすために他者を必要とする(文献数14)

がんの診断を受けた人は、病気に関する詳細な説明や情報を得るため、また、治療に伴う副作用、不快な症状への対処方法を学ぶために、専門家や他者を必要としていることが明らかにされている[C16, C26, C30, C33, P 6, P10, P13, P23, P42, 医174, 医303]。また、彼らは意思決定に関して他者の積極的な支援を必要としていることも報告されている[C16, C107, C110]。がんに関する深刻でネガティブな出来事により生じる心配や不安、防衛反応等に対しては、自らの気持ちを安定させるために、家族や友人、同病者、医療関係者など他者との関わりを必要としていることも明らかにされている[P 6, P13, P42, 医174]。一方、乳がんサバイバーがどのように専門家主導によるサポートグループを認知したかを調査した米国の報告では、サバイバーは自らのニーズを満たすために他者を必要としているが、サポートグループに対する強く否定的な仮説を持っている場合には、サポートグループを見つけ出すことが抑止されることが報告されている[P45]。

2) がん診断前とは異なるさまざまな形態の支援を他者から受け取る(文献数40)

がんの診断を受けた人は、病気や治療によって生じる問題に対して、社会的ネットワークを通じてさまざまな形態の支援を受け取っていることが報告されている。即ち、感情の支援[C68, C75, C88, P10, P53, P57, 医75, 医96, 医98, 医137, 医161,

医218, 医274]、情報の支援[C75, C88, P 6, 医98, 医138]、身の回りの生活支援[C16, C75, 医35, 医73, 医75, 医96, 医98, 医137, 医183]、専門家からの支援[C12, C16, C33, C62, C88, P67, P83, 医98, 医259, 医274]、同病者からの支援[C16, P10, 医217, 医218, 医255, 医274]である。他者から何らかの行為を受けた際、その行為を支援として認知するか否かについては、患者の個人属性[C69, C101, P 3, P 9, P41, 医40]、診断・治療に関わる時期[C107, P41, P75, 医314]、身体機能の低下[P32, P62]、苦痛[C10, C109]の影響が複数、報告されている。化学療法を経験したがん患者を対象にthe perceived social supportに影響する人口統計上の特徴を調査したトルコの報告で、高齢者、男性、既婚者、子供がいる患者はソーシャルサポートの認知が高いこと、教育背景が低学歴であっても、病気や治療について十分な情報を得ていればソーシャルサポートの認知は高レベルであったことが報告されている[P 9]。診断・治療に関わる時期では、婦人科がん患者は診断後の期間が長くなるほど、The Multidimensional Scale of Perceived Social Supportのトータルスコアと重要他者のサポートが減少したことが報告されている[P41]。これは診断直後の患者への集中的な注意が薄れ、周囲が患者の状態に慣れてしまうことと、患者自身の関係性を継続するエネルギーが欠乏するためであると考察されている。また、ターミナル期にあるがん患者は死が近づくにつれソーシャルサポートの認知が低下することが報告されている[P75]。このほか、身体機能の低下、苦痛では、症状の辛さが重症になるにつれてソーシャルサポートの認知が低下すること[P62]、スティグマ、対人葛藤が高いとサポートの認知が低下すること[C10, C109]が報告されている。

3) 社会的ネットワークのなかで、がん診断前と変わらず自分の価値が認められる(文献数6)

がんの診断を受けた人は、がんに罹患したとしても、社会的ネットワークのなかで、変わらず自分の価値が認められる[C12, C75, P53, 医96, 医277]ことで、支えられていることに気付くと報

告されている。肺がん患者を対象にソーシャルサポートと社会的ネットワークが与える影響を調査したスウェーデンの報告では、患者が社会的ネットワーク内で変わらず自分の価値が受け入れられることは、その人自身が自分の価値を認知することにおいて重要であること、ネットワーク内の良い関係は、患者自ら価値があり愛されケアされているとの感覚をもたらすことが明らかにされている [P53]。また、社会的ネットワークのなかで人として認められることは、病気に関する対話が開放的で、自分の自由裁量で病気について分かち合えることを意味すると報告されている [P10, P53]。

4) 他者からの支援により心理的負担や自責の念が生じる (文献数10)

がんの診断を受けた人は、社会的ネットワークを通してさまざまな支援を受けるが、期待する支援との不一致や、過剰な支援により、予期せぬ負担を生じていることが報告されている [C16, C68, P10, P12, P29, P83, 医151, 医161, 医183, 医277]。乳がんの女性が、がんサバイバーシップの過程でどのようにサポートを概念化し、経験したかについて質的に探究した米国の報告では、家族員から不必要、望まないサポートが提供された時の予期せぬ失望について報告されている [P29]。同病者から支援を得ることは、肯定的な効果が示される一方で、同病者の死や病状悪化が、自らの代理体験を生むことも報告されている [医161, 医277]。また、他者に負担をかけているとの認識は、自責の念を生むことも報告されている [P10, 医161, 医217, 医277]。

5) 他者とのコミュニケーションや病気に関する対話に負担が生じる (文献数7)

病気に対する他者の反応や、他者から致命的な病気に罹っていると認識されることは、がんの診断を受けた人の対話にストレスを引き起こしていることが報告されている [医274, 医277, P67]。また、がん患者は自らのニーズをどのように表現するとよいかの認識が欠如していること [医134,

P67, C32] や、ニーズを表現することで、患者でない、いつも通りのアイデンティティを失う恐れを抱えていること [P67] が報告されている。頭頸部癌の特徴的な病態では、不快な症状や口腔機能の問題によりコミュニケーション機能の低下が生じ、孤立や強い精神的挫折を経験していることが報告されている [医255, P24]。

6) 他者との衝突や関係維持の障害が生じる (文献数12)

がんの診断を受けた人は、他者から蔑まれるような態度や否定的な言葉を受け [C68, P57, 医75, 医161, 医259], 自尊心の低下 [P57] を経験していることが報告されている。乳がん患者を対象にソーシャルサポートを質的に記述した日本の報告で、衝突が生じる相互作用としてぶっさらばうな態度を報告している [C68]。難治性がん患者の対処プロセスを質的に記述したフィンランドの報告では、患者は健康な人から病気の人へと人生が変わり、社会的関係の制限を経験していることが報告されている [P10]。この他、がんサバイバーは、心身の脆弱性が高まり社会的孤立感が増す [P10, P24, 医79, 医255, 医259, 医277], サポートが欠如する [C33, P37], 他者に負担をかけると思うことで関係に入りづらくなることが報告されている [P37]。

7) 社会的ネットワーク内の調和を脅かさないように行動する (文献数3)

がんの診断を受けた人は、社会的ネットワークの否定的な関係と距離をとり [P37], 調和を脅かさないように行動していることが明らかにされている [C68, C88]。進行がん患者とその配偶者が、進行がんを自宅で管理するために用いられた資源と、「work」を明らかにした研究では、患者は、周囲にいる人々が快適に過ごせるよう、他者に苦しみを与えないよう、前向きな態度を維持していたと報告している [C88]。乳がんの日本人女性を対象にソーシャルサポートを質的に記述した報告では、女性たちが、他者から受けた親切に対してお返しをしないことは、グループの調和を脅か

し、罪悪感と恥ずかしさを生じる恐れがあったことを報告している [C68]。

8) 自分らしさを保つ行動をとり、他者に依存し過ぎない (文献数8)

がんの診断を受けた人は、がん罹患を隠すことで自分らしさを保ち [医43, 医161], 社会的ネットワークのなかでできる限り自立し、他者に負担をかけず依存し過ぎないようにしていること [P53, 医151, 医271] が報告されている。自分の役割を遂行し、家族や同病者などに支援を提供する行動をとることも報告されている [C12, P 6, 医43, 医55, 医151, 医161]。

9) がんと共に生きる力を引き出す新たな関係を探る (文献数11)

がんの診断を受けた人は、支えとなる関係を探し求め、自らのニーズを満たすために活用したり [C108, P 6, P37, P45, 医43, 医55, 医151, 医161, 医231, 医277], 新たな関係を築き、その関係を継続したりしている [P 6, P37, 医303] ことが報告されている。がんサバイバーによる人間関係の再構築として6つのタイプを明らかにした研究 [P37] のなかで、「肯定的な現存の関係の継続 (支援の要素を含む)」のタイプでは、提供される支援を強めることや、緊密な関係を維持し、人間関係から力を引き出すこと、がん罹患前と同じように待遇を受けること、社会生活を維持しセルフマネジメント活動に参加することが報告されている。「現存の関係の改善」のタイプでは、病気の詳細等について隠し事をせず、よりオープンに話す能力を高めていることが報告されている。

IV. 考 察

社会的ネットワークに関する研究は、1970年代半ばから始まったソーシャルサポートに関する研究よりも10年早く始まり、1970年代後半からは様々な健康問題との関係が研究されるようになった (南, 1986) と言われている。本研究結果より、がん患者を対象に実施された社会的ネット

ワークに関する論文数は、最初の発行である1990年から徐々に増加傾向にあることが示された。今後、さらに増加を続けるであろうがん患者の心身の特徴を捉えた上で、社会的ネットワークを通じた支援を検討するため、がん看護学領域での研究成果のさらなる蓄積が期待される。一方、分析対象73論文のうち、タイトルに「social network / 社会的ネットワーク」を含む論文は2件 (2.7%) のみで、「social support / support / ソーシャルサポート / サポート」を含む論文が40件 (54.8%) と半数以上を占めることから、特に、社会的ネットワーク内に生まれる支援に注目して研究が進展してきており、関係性の集合である社会的ネットワーク全体に関する研究は少ない現状が明らかとなった。そして、類似の内容について、社会的ネットワーク、ソーシャルサポート以外の用語をタイトルとして採用している研究が31件 (42.5%) を占めており、社会的ネットワーク内で生じる現象は、多様な用語を用いて表されていることが示された。社会的ネットワークが健康に及ぼす影響についての概念モデルでは、社会的ネットワークは、文化など社会構造的条件によって規定され、心理社会的メカニズムを経て健康に影響すると説明されている (Berkman, Glass, 2000)。国によって歴史や文化、生活が異なるなかで、がんの診断を受けた日本人特有の社会的ネットワークは、どのような用語を用いて説明できる概念であるのかについて、研究の蓄積が必要であると考ええる。

本研究の結果より、がんの診断を受けた人は、病気と治療に関する問題について理解することや、副作用や不快症状、治療の意思決定、不安や心配への対処など、1) がん診断・治療に伴うニーズを満たすために他者を必要とし、2) がん診断前とは異なるさまざまな形態の支援を他者から受け取ること、3) 社会的ネットワークのなかで、がん診断前と変わらず自分の価値が認められることにより、他者から支えられていることや、その人自身の価値を認知しながら、自らのニーズを満たしていくことが重要となる。社会的ネットワークによる心理的、物質的資源の提供としての

社会的支援は、ストレスに対処する個人の能力に利益をもたらす (Cohen, 2004) とされる。他者からの行為を支援として認知することは、がんサバイバーシップを実現する上で、個人の力に対して有効に機能すると推察され、社会的ネットワークは、がんの診断を受けた人の自助の在り方や方法を検討するために活用できる重要な概念となり得る。

一方、がんの診断を受けた人には、4) 他者からの支援により心理的負担や自責の念が生じる、5) 他者とのコミュニケーションや病気に関する対話に負担が生じる、6) 他者との衝突や関係維持の障害が生じることが明らかとなった。終末期がん患者が家族介護者へ一方的に負担をかけお返しできない申し訳なさを感じている報告 (大塚, 佐々木ら, 2017) や、再発や増悪を経験したがん患者が家族と対話し難い体験をしている報告 (大橋, 稲垣ら, 2020) は、他者からの支援に対する心理的負担や対話に負担が生じている点で、本研究結果と類似している。Cohen, Underwood, et. al. (2000) は、人間関係には支援的な側面だけではなく、葛藤に満ちた負担となる側面があり、両方の側面をもつ場合には両方向の影響を検討する必要性について述べている。がんの診断を受けた人は、社会的ネットワークを通して両側面の影響を受けている可能性があることを考慮し、同じ援助を提供しても、その人にとって望ましい結果をもたらすか否かは、アセスメントが必要となる。

さらに、がんの診断を受けた人は、7) 社会的ネットワーク内の調和を脅かさないよう行動する、8) 自分らしさを保つ行動をとり、他者に依存し過ぎない、9) がんと共に生きる力を引き出す新たな関係を探る、という社会的ネットワーク行動をとっていることが明らかになった。がん患者は、がんサバイバーシップへの移行の間に生じる深刻で重大な変化に対して、適応と調整のプロセスを開始し、このプロセスは終わらない (Wood, 2018) ことが報告されている。本研究で明らかになった社会的ネットワーク行動は、がんの診断を受けた人が、がん罹患に関連して生じる他者との関係性の変化から受ける肯定的・否定的

影響を調整し、サバイバーシップへの移行を達成するためにとり続けられる行動であると考ええる。金子 (1986) は、人がネットワークを形成する理由について、自発性の力は潜在的に大きい、一方それはこわれやすく、その力を保ってゆくには一人では弱すぎることにありと説明している。そして、自分が自分であることのエネルギーを他の人から授かることを可能にするのがネットワークであると説明している。ネットワークが形成されるプロセスを意味する語はネットワーキングといわれ (金子, 1986; Lipnack, Stamps, 1982), 個人の目標達成をサポートするようなつながりを作るために、能動的にネットワークを利用することとされる (Kadushin, 2012)。本研究の結果より、がんの診断を受けた人は、自らのニーズを満たすために社会的ネットワーキングを行い、がんと共に生き抜くために必要な支援やエネルギーを得ながら、がん罹患や治療に伴う苦痛やストレスに対処していると推察される。しかし同時に、負担や衝突、関係維持の障害に直面することは、社会的ネットワークやがんサバイバーシップに費やすエネルギーを奪われ、脅威になり得ると考えられる。秋元 (2009) は、闘病に適した身体やこころの状態は緊張とエネルギーの消耗を伴うと述べている。がんの診断を受けた人が、持続する多様な苦痛を調整し、社会的ネットワーク行動を継続できるためのエネルギーを保証する取り組みが重要となる。

人間関係において、Hall (1976) は、日本人に特徴的な行動の型として二つの相反する側面を挙げている。一つは儀式張らない、他人と深くかわり合う親密な面で、もう一つは儀礼的で、自己を強く抑制し、他人との間に距離をおき、自分の感情は表さない面であり、これらの態度は日本の長い歴史に深く根ざしていると説明している。今後は、がんの診断を受けた人が、社会的ネットワークから受ける影響を調整しながら、どのように能動的にネットワークを活用し、がんサバイバーシップを達成していくのか、日本人特有のプロセスに焦点をあてた研究の発展が必要であると考ええる。

V. 結 論

本研究は、文献レビューを通じて、がんの診断を受けた人々が社会的ネットワークのなかで経験する他者との関係性について、これまでの研究知見の統合を通じて明らかにすることを目的とした。分析対象文献は、選定基準を満たした73件で、Cooper (2017) の統合レビューの手順を参考に、研究のアウトカムを分析・統合した。その結果、がんの診断を受けた人々は、がん診断・治療に伴うニーズを満たすために他者を必要とし、がん診断前とは異なるさまざまな形態の支援を受け取っていることが明らかになった。一方、支援を受け取ることには心理的負担や自責の念が生じ、他者との衝突、関係維持の阻害等も生じていることが明らかとなった。今後は、がんの診断を受けた人が、社会的ネットワークから受ける影響を調整しながら、どのように能動的にネットワークを活用し、がんサバイバーシップを達成していくのか、日本人特有のプロセスに焦点をあてた研究の発展が必要である。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

オーサーシップ

竹下裕子は研究の着想、実施、草稿の作成；山内栄子は原稿への示唆および研究プロセス全体への指導。すべての著者は最終原稿を読み、承認した。

文 献

秋元典子. (2009). 第2部 第5章 闘病の合間にほっとする時間を提供している. 菱沼典子, 井上智子, 武田利明(編). 看護の原理 ケアすることの本質と魅力. (P.175), 横浜: 株式会社ライフサポート社.

天野功士, 鈴木久美. (2017). がん患者が生活の再構築過程において直面する課題と取り組みに関する文献検討. 大阪医科大学看護研究雑誌,

7, 72-81. https://www.ompu.ac.jp/research/omc/outcome/magazine/nursing/tpv_6_n40000000p78-att/10.pdf

Berkman LF, Glass T. (2000). Social Integration, Social Networks, Social Support, and Health. Social epidemiology. Berkman LF, Kawachi I. (eds). Social Epidemiology (pp. 137-173), New York: Oxford University Press.

地域包括ケア研究会. (2017). 地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書—2040年に向けた挑戦. https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2022/11/h28_01.pdf (検索日2024年9月16日).

Cohen S. (2004). Social relationships and health. The American psychologist. 59(8), 676-684. <https://doi.org/10.1037/0003-066x.59.8.676>

Cohen S, Underwood LG, Gottlieb BH. (編著). (2000/2005). 小杉正太郎, 島津美由紀, 大塚泰正, 鈴木綾子(監訳). ソーシャルサポートの測定と介入. (p.128), 東京: 川島書店.

Cooper H. (2017). Research Synthesis and Meta-Analysis : A Step-by-Step Approach. The United States of America : Sage Publications. Introduction : Literature Reviews, Research Syntheses, and Meta-Analyses. (pp.2-29).

Hall ET. (1976). 岩田慶治, 谷泰(訳). 新装版 文化を超えて. (pp. 79-83), 東京: 株式会社ティビーエス・ブリタニカ.

広瀬由美子, 佐藤まゆみ, 泰圓澄洋子, 眞嶋朋子. (2011). 若年女性生殖器がん術後患者の他者との関係における体験. 千葉看護学会会誌, 17(1), 43-50. https://doi.org/10.24624/cpu.4.1_1_19

Jones EC, Storksdieck M. (2019). Recent research on the social network concept and cancer. Current Opinion Support Palliative Care, 13(3), 225-237. <https://doi.org/10.1097/spc.0000000000000442>

Kadushin C. (2012/2015). 五十嵐祐(監訳). 社会的ネットワークを理解する. (p. 1, p. 16), 京都: 北大路書房.

金子郁容. (1986). ネットワーキングへの招待.

- 東京：中公新書. (p. 8, p. 191).
- 川村三希子. (2005). 長期生存を続けるサバイバーが生きる意味を見いだすプロセス. 日本がん看護学会誌, 19(1), 13-21. <https://doi.org/10.18906/jjscn.2005-19-1-13>
- 国立がん研究センター. (2017). がん対策研究所 予防関連プロジェクト がん罹患・死亡・有病数の長期予測. <https://epi.ncc.go.jp/paf/evaluation/7956> (検索日2024年9月16日)
- 国立がん研究センター. (2024). 主な統計情報 最新がん統計. https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html (検索日2024年10月27日).
- Kroenke CH, Kubzansky LD, Schernhammer ES, Holmes MD, Ichiro Kawachi. Social Networks, Social Support, and Survival After Breast Cancer Diagnosis. (2006). *Journal of Clinical Oncology*, 24(7), 1105-1111. <https://doi.org/10.1200/JCO.2005.04.2846>
- Lipnack J, Stamps J. (1982/1984). 正村公宏 (監修). ネットワーキング. (p. 23), 東京：プレジデント社.
- 南裕子. (1986). ソーシャル・サポート・ネットワークー理論と研究方法の概観一. 日本保健医療行動科学会 年報 第1巻 健康と病気の行動科学, 1, 88-108. https://www.jahbs.info/journal/pdf/vol01/vol01_07.pdf
- Mitchell JC. (1969/1983). Social networks in urban situations. Manchester, England: University of Manchester Press. 三雲正博, 福島清紀, 進本真文(訳). 社会的ネットワーク. p.10, p.33, 東京：国文社.
- 向井未年子, 大石ふみ子, 大西和子. (2012). 外来通院中の進行肺がん患者のストレスコーピングとソーシャル・サポートの検討. 三重看護学誌, 14(1), 29-39. <https://mie-u.repo.nii.ac.jp/records/4625>
- National Coalition for Cancer Survivorship. Defining Cancer Survivorship. <https://canceradvocacy.org/defining-cancer-survivorship/> (検索日2024年7月16日).
- Occhipinti S, Dunn J, O'Connell DL, Garvey G, Valery PC, Ball D, Fong KM, Vinod S, Chambers S. (2018). Lung Cancer Stigma across the Social Network: Patient and Caregiver Perspectives. *Journal of Thoracic Oncology*, 13(10), 1443-1453. <https://doi.org/10.1016/j.jtho.2018.06.015>
- 大塚美樹, 佐々木由紀, 谷村千華. (2017). 終末期がん患者の家族介護者へのSelf-Perceived Burden. 日本看護研究学会雑誌, 40(2), 113-118. <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20161114001>
- 大橋佳代, 稲垣美智子, 多崎恵子, 堀口智美. (2020). 再発や増悪を経験したがん患者が“家族と対話し難い体験”. 日本看護研究学会雑誌, 43(4), 705-713. <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20200220085>
- 佐々木理衣, 佐藤菜保子, 佐藤富美子. (2016). 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気付きとソーシャル・サポートの関連. 日本がん看護学会誌, 30(2), 99-106. <https://doi.org/10.18906/jjscn.sous1>
- Sjölander C, Berterö C. (2008). The significance of social support and social networks among newly diagnosed lung cancer patients in Sweden. *Nurs Health Sci*, 10(3), 182-187. <https://doi.org/10.1111/j.1442-2018.2008.00395.x>
- 角田明美, 望月留加, 神田清子. (2016). 死を認知した再発・進行がん患者が希望を見いだすプロセス. *KMJ THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL*, 66, 201-209. <https://doi.org/10.2974/kmj.66.201>
- Wood SK. (2018). Transition to Cancer Survivorship: A Concept Analysis. *Advance in Nursing Science*, 41(2), 145-160. <https://doi.org/10.1097/ANS.0000000000000190>
- 矢ヶ崎香, 小松浩子. (2007). 外来で治療を続ける再発乳がん患者が安定した自分へ統合していく体験. 日本がん看護学会誌, 21(1), 57-65. <https://doi.org/10.18906/jjscn.2007-21-1-57>